

2010年(平成22年) 6月13日発行

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1
☎0595-63-7402 ☎64-2560 ✉info@city.nabari.mie.jp
🌐http://www.city.nabari.lg.jp
携帯版📱http://www.city.nabari.lg.jp/m_index.htm
バーコード読み取り対応の携帯電話端末から携帯版📱へ



▶ 主な内容 P2…耐震補強工事費を補助 P3…暮らしの情報、東山墓園墓所使用者募集 P4…7月の相談日程、まちの話題



平成23年3月撤退の皇學館大学跡地に 近大高専を誘致

市は、平成23年3月に撤退する皇學館大学名張学舎の跡地への近畿大学工業高等専門学校(近大高専)移転について学校法人近畿大学と、5月25日、合意書を締結しました。

今号では、移転合意までの経緯と、近畿大学との合意内容をご紹介します。

☎ 総合企画政策室 ☎ 63-7389

移転合意までの経緯と今後の予定

- | | | |
|---------|----|----------------------------------|
| 平成21年 | 1月 | 皇學館大学から撤退の意向を受ける |
| | 3月 | 皇學館大学と土地建物の無償譲渡や和解金などを盛り込んだ覚書を締結 |
| | 5月 | 大学跡地利用法人を公募 |
| | 6月 | 3法人から跡地利用の意思表示を受ける |
| | 8月 | 交渉先を学校法人近畿大学(近畿大学工業高等専門学校)とする |
| 平成22年 | 2月 | 移転協議基本合意書締結 |
| | 5月 | 移転合意書を締結 |
| | 6月 | 市議会に近大高専誘致関連予算議案提出 |
| | 7月 | 協定書の締結(予定) |
| 平成23年4月 | | 近畿大学工業高等専門学校開設(予定) |

近畿大学工業高等専門学校移転合意の内容

- 開設時期** 平成23年4月
- 開設学科** 総合システム工学科(入学定員160人、収容定員800人)、生産システム工学専攻科(入学定員18人、収容定員36人)
- 市の支援内容** ▼皇學館大学から返還される土地、建物、機器備品などの無償提供 ▼隣接の市有地の無償貸与 ▼現校舎改修整備と新規施設整備の国・県の支援策を活用しての財政支援 ※市は9,000万円を限度に支援を予定 ▼産官学連携事業の推進と支援
- 協力して取り組む事項** ▼名張駅までの交通基盤の充実 ▼奨学金制度の創設など学生への支援 ▼学生の住居確保協力

皇學館大学の撤退意向を受け、市は直後から、施設の維持管理費用などが必要となることから、できる限り撤退から間を空けずに活用できるように、全国の私立大学などを対象に誘致活動を展開してきました。

平成23年4月に 近大高専が名張市へ移転

平成23年3月に撤退する皇學館大学社会福祉学部(名張学舎)の存続に向け、市は大学側と協議を重ねました。しかし、18歳人口の減少、福祉系学部への入学志願者の大幅な減少といった全国的な傾向に加え、名張学舎開設以来福祉系学部が増えてきたことなどにより、入学者が定員を下回る状況が続いたことから、皇學館大学は平成23年3月に撤退することになりました。

近大高専の移転は、地域の教育レベルの向上をはじめ、市民や企業など産官学協働による新たな展開が期待されます。また、近大高専は公開講座や学校施設の開放などの実績があり、さまざまな地域貢献が期待されます。

皇學館大学との調整

平成21年5月から6月まで大学跡地利用法人を公募したところ、3法人から意思表示がありました。市は選定委員会を設置し、3法人から出された計画書と面談内容から「運営の計画性」「地域への貢献度」「設置法人の状況」を総合的に判断し、交渉相手为学校法人近畿大学(近畿大学工業高等専門学校)としました。

少子化、経済不況の中、私立学校は、地方から都市にもどる傾向がある中、市は近大高専の移転を千載一遇の機会であると考え、積極的に交渉を進め、5月25日、近畿大学との間で近大高専の移転合意を締結しました。

近大高専が地域に開かれた学校として、文化教育、産業などさまざまな分野において、地域の発展、充実に寄与できるよう連携、協力する。

▼近大高専が地域に開かれた学校として、文化教育、産業などさまざまな分野において、地域の発展、充実に寄与できるよう連携、協力する。 ▼近大高専の移転完了後、将来近大高専の独立法人化について連携、協力する。



調印後、握手をする市長と世耕弘茂副理事長(右)